

星、届けます

檜木梨花子 茨城県

水戸駅南口ペディストリアンデッキ・・・

煌々とした駅ビルの照明に囲まれた広場が、私のフィールド。

手元ははっきり見え、昼間の様。

数値で表すと、空の等級は16等級・・・。

暗い山奥と比較したら理論的には100倍以上の明るさ。

ミュージシャンのキーボードやギター、歌声は流れ、スケボーに興じる人々や、会社や学校帰りの急ぎ足。

巨大なスクリーンには流行りの音楽や映画の宣伝が流れ、電車の音が響く・・・。

そこにバスで運んだ望遠鏡と双眼鏡を設置。

周囲からの異様さと好奇心が入り混じった視線。足を止める人々・・・。

「望遠鏡のぞいてみませんか？」

それでも見える星はある。

月、木星や火星等の惑星、夏の大三角形、冬はオリオン座、すばる・・・。

望遠鏡をのぞけば、月には山奥で見るのと同様にたくさんのクレーターがある。

木星には白と赤茶色の縞が数本確認出来、衛星は並んでそれに寄り添う。

オリオン大星雲がひっそりとした美しさを見せ、すばるは宝石の様に青々と輝いている。

大口径の望遠鏡で見るとような、立派な星団、星雲は見えないけど。

12cm 屈折は少し色収差があるけれど。

双眼鏡はビルの覗きかと思われそうになったけど。

多くの人の発見や驚きのへの第一歩になれたのなら・・・。

『2009年・世界天文年』という人々の天文への意識が高まっている今だからこそ。

自分も少しの勇気を持って。

「望遠鏡、のぞいてみませんか？」

その一言を掛け易くなったのではないかと思う。

会社帰りのスーツを着たサラリーマンの団体、女子高校生や映画を見に来たカップル。

上京を夢見て路上に立つミュージシャンや、部活帰りの疲れ果てた中学生。

仕事を終え居酒屋に向かう若者や、既に少し酔っぱらったおじさん。

広場の清掃や警備の方までもが望遠鏡をのぞいた。

様々な年代、様々な背景知識、様々な興味……。

それに応じて星を紹介する……。

「今望遠鏡で見えているのはあの星ですか？」

一緒に指を指して確認する。

「あの一番明るい星ですよ」

望遠鏡で覗いた木星に対して、

「横に並んでいるのが、ガリレオ衛星で……」

「衛星って何？」

「地球の周りには月が回っているよね。その様に惑星の周りを回っているものですよ」

生まれて初めて望遠鏡をのぞく人……。

それぞれみんな、驚きを見せる。

「え、何？この周りに一直線に並んでいるの！？」

「いつも写真で見る様な縞がある！」

「月のクレーターってこんなに地球からはっきり見えるんだ！」

……。

驚きと好奇心が入り混じった声。

言ってしまうと、みんながガリレオになった瞬間であった。

普段望遠鏡をのぞく方はあまり感動しない恒星を見て、色の違いに感動する人、

「ガリレオ衛星、ガリレオ衛星……アルビレオ、アルビレオ……」

と聞き慣れない言葉を何回も反復して忘れないようにする小学2、3年の子、

「ガリレオ？地動説の人？」

「いや、それはコペルニクスだよ。」

と話す高校生。

ISS や、日によって姿を変える月の紹介から、不変だと思っていた宇宙の様子が短いスパンでも様相を変える事を認識し、新しい知的発見をする人もいる。

小さな口径の望遠鏡から大宇宙や銀河の果てへ思いを馳せる人もいる。

誰でもきっかけさえあれば、敷居などそこには無く、踏み込むことが出来る。

その小さな好奇心や、知識欲、興味に応じてあげる事で誰でも楽しみ、小さな天文学者になれる。

いつの間にか出来る列を見て、いつもそう思う。

この場所で 1000 人近くの人に星を見てもらい、それより多くの人と天文について語った。

星が見えやすい場所を聞いたり、光害についての問題も話し合ったりした。

「生まれて最初にある記憶が、百武彗星の記憶なんですよ。」

「ハレー彗星を昔、見に行きました。」

「この前のオリオン流星群、少し観測したんですよ。」

「宿題の月の観察はいつごろやればよいですか。」

「宇宙人っているの？」

・・・。

世界天文年の今年、私も少し背伸びして。

長野、富士山、北海道の旭岳、果てにはマウナケアの山頂 4200m。

目を疑うような濃い天の川や、肉眼でもはっきりとしているアンドロメダ銀河等を見た。

横になり、星に包まれ、深い宇宙に吸い込まれていくような感覚を得た。

暗い山の中で、一人望遠鏡とカメラをセットしてじっと観測する天体観測。

明るい光の中で、急ぐ人達の中で大勢に見せる天体観望会。

対極にあるその両方を経験して、根底に残っている思い出は・・・。

意外にも望遠鏡をのぞいた多くの人に笑顔と感動を与えた、木星や月という存在であった。

そして駅で望遠鏡をのぞいた、たくさんの人の表情だった。

許可書類を提出し、申請書を頂く警察の方とは顔なじみになり、

「あんな所で見て、何か見えるのかい？」

であったのが、

「晴れると良いね」

に変わり、ミュージシャンの方とは、コラボレーションするようになった。

「路上ライブ付きの観望会だね。」に対して、

「いえいえ、観望会付きの路上ライブですから・・・」と答える私。

曲は天文にちなんだ曲が自然と流れる。

曇っていても望遠鏡に興味を示す人も多く、

「のぞけば何か見えますか？」

雲の隙間をじっと一緒に待つ。望遠鏡で撮影した写真を見て、

「こんなに良く見えるの！？また晴れた日に来ます。」

と言い、リピーターになった駅の近くの予備校の学生。

少しでも身近に星を感じてもらえたなら。

少しでも天文年を盛り上げる事が出来たなら。

たくさんの人と同じ空を見上げる事が出来たなら。

感動を共有出来たのならば・・・。

「今度はいつやりますか？」

「また来ますね。」

「次はもっといろいろ見せてもらおう・・・！」

あなたに星を届けますよ。

駅ビルに囲まれたこの場所に。